


区政 Now ! (27年10月号)

全国連携特集号

「区政は区民を幸せにするシステムである」・・・西川太一郎

い
あ
い
さ
し



本格的な人口減少社会を迎える中、全国の自治体では、地域経済やコミュニティの衰退などが懸念されています。このような状況の中、日本社会が再びその力を取り戻し、持続可能な社会を築いていくためには、日本全体でパイを奪い合うような「ゼロサム」の関係ではなく、全国の自治体がそれぞれのよい部分を活かして協力・連携し、互いに発展していく「プラスサム」の関係を築いていくことが重要と考えます。

私は、このような考えのもと、既に様々な取組を推進しております。例えば、荒川区の呼び掛けにより発足した「幸せリーグ」では、住民の幸福の追求という志を同じくする参加自治体が、互いに学び合い、高め合う取組を推進しております。同様に、荒川区の発案をベースとして発足した「特別区全国連携プロジェクト」では、東北の復興支援をはじめ、全国各地との連携・交流を積極的に行っております。

このような全国各地域の発展につながる取組の積み重ねが、ひいては荒川区の発展にもつながっていくものと考えております。今後とも、区民の皆様様の御理解、御協力をお願いいたします。

主
な
事
業

1 特別区全国連携プロジェクト


【プロジェクトの概要】

◇ 我が国では、人口減少社会を迎える中、地域や経済の衰退などが懸念されており、今まさに地域の活性化が求められています。国もこれを課題として位置づけ、「地方創生」に力を向けようとしています。


◇ 東京・特別区は、人材交流はもちろん、経済、生活全般にわたり、全国各地域に支えられ成り立っています。東京を含む全国各地域が、互いの良いところを活かし、学び、補完しあうことで個々が抱える課題を克服するとともに、ともに発展・成長し、共存共栄を図っていくことこそが今必要であり、それが日本の元気につながると考えられます。

◇ このことから、特別区長会は、全国各地域との新たな連携を模索し、東京を含めた各地域の経済の活性化、地域の発展につながるような取組として、平成26年9月に「特別区全国連携プロジェクト」を立ち上げました。

◇ プロジェクトでは、自治体間の情報の共有化、自治体と地域住民・企業・NPO 間での情報の共有化やマッチング支援等を行うことにより、更なる連携、交流事業の拡大を目指してまいります。



全国連携ロゴマーク



・ 共存共栄のための新たな連携を模索
⇒ 全国市町村の情報の共有化
 ・ 特別区との連携や交流の情報を受発信
 ・ 特別区とのマッチング支援
 ・ 市町村の情報を受発信
⇒ 全国市町村とのマッチング支援
 ・ 地域経済の活性化
 ・ 人の交流を促進し地域を活性化

特別区全国連携プロジェクトのイメージ図

【具体的な取組】

● 石破茂地方創生担当大臣と会談を行いました

- ◇ 9月30日、特別区長会会長として石破茂地方創生担当大臣を訪問し、地方創生について会談を行いました。
- ◇ 石破大臣に「特別区全国連携プロジェクト」で全国の市町村との連携を推進していることを説明し、大臣から取組について高い評価をいただくとともに、今後、地方創生に向けてさらに連携を強めていく考えで一致いたしました。
- ◇ 今後とも、全国の自治体や国との密接な連携のもと、地方創生に向けた取組を推進してまいります。



石破大臣と固く握手を交わす

● 特別区全国連携プロジェクト専用ホームページの開設

- ◇ 特別区長会では、特別区と全国の市町村が連携するイベントや事業、各自治体の最新の情報等を紹介する専用ホームページを開設しました。自治体相互の情報共有を図るプラットフォームとしての機能や、他自治体の住民に対して連携事業の内容等を周知する機能などを持っています。
- ◇ このホームページを通じて、さらなる連携を推進してまいります。
- ◇ 「特別区全国連携プロジェクト」専用HP URL⇒<http://collabo.tokyo-23city.or.jp/>

● 東北の雪を活用したイベントの実施

- ◇ 岩手県北上市及び西和賀町から、東北の雪を首都圏に運搬し、各区で春以降に開催されるイベント等に活用できないかという提案を受け、荒川区・江東区・品川区が雪を活用したイベントを実施しました。
- ◇ 荒川区では、4月19日、あらかわ遊園に搬入した雪8トンを活用して、滑り台や遊び場を整備し、子ども達に雪を楽しんでもらうイベントを開催しました。

● 東北六魂祭2015秋田の支援

- ◇ 5月30日、31日に、秋田県秋田市で開催された東北六魂祭への支援・協力を行いました。東北六魂祭は、東日本大震災からの復興と地域振興を図るため、東北6県の県庁所在都市6市が主催しているお祭りです。特別区では、東北六魂祭開催に先立ち、祭りのPR活動を実施するとともに、当日は、会場内に特別区のPRブースを設けて情報発信を行いました。



式典の様子

(大田区長、中野区長とともに)

● 北海道との連携・交流

- ◇ 6月8日、北海道町村会と意見交換を行い、特別区と北海道の町村との連携・交流を今後積極的に行っていくことを確認しました。その後、7月9日に高橋はるみ北海道知事が荒川区を訪問され、物産の販売支援や自治体間交流などについて意見交換しました。

● 青森県市町村との連携

- ◇ 9月15日、特別区長会事務局が青森県内市町村向けに、「特別区全国連携プロジェクト」の取組を紹介し、今後の具体的な連携に向けた意見交換を行いました。

2 幸せリーグ

● 幸せリーグの概要

◇ 平成25年6月5日、52自治体からなる、住民の幸福実感向上を目指す基礎自治体連合、通称「幸せリーグ」を設立しました。幸せリーグは、住民の幸福の追求という共通の使命のもと、志を同じくする基礎自治体が相互に学び合い、高め合うことを通じて、真に住民本位の自治体運営を実現し、誰もが幸福を実感できるあたたかい地域社会を築いていくことを目的としています。



第3回幸せリーグ総会の記念撮影

◇ 現在、参加自治体の数は、荒川区を含め64自治体（平成27年9月末現在）、参加検討中の自治体を含めれば72自治体と、着実にその数を増やしています。会長は、西川太一郎荒川区長、幹事は市原健一つくば市長と中山泰京丹後市長、会計監事は藤井信吾取手市長が務めています。

都道府県	自治体名	都道府県	自治体名	都道府県	自治体名	都道府県	自治体名	都道府県	自治体名	
北海道	釧路市	福島県	福島市	埼玉県	吉川市	富山県	高岡市	愛知県	武豊町	
	北見市		二本松市		川島町		南砺市		三重県	松阪市
	北広島市		桑折町	館山市	射水市	滋賀県	草津市			
	斜里町		石川町		鴨川市		石川県	珠洲市		
青森県	広尾町	茨城県	小野町	千葉県	酒々井町	山梨県	南アルプス市	京都府	守山市	
	むつ市		取手市		大多喜町		北杜市		京丹後市	
岩手県	北上市	茨城県	つくば市	東京都	荒川区	長野県	青木村	兵庫県	多可町	
	釜石市		潮来市		奥多摩町		麻績村		和歌山県	みなべ町
	西和賀町		かすみがうら市	神奈川県	大和市	岐阜県	大垣市	山口県	防府市	
宮城県	女川町		阿見町	新潟県	三條市	愛知県	豊田市	徳島県	上勝町	
山形県	米沢市	栃木県	小山市		妙高市		愛知県		安城市	佐賀県
	真室川町	群馬県	桐生市		佐渡市			高浜市	大分県	
	鮭川村	埼玉県	秩父市		津南町			長久手市		

幸せリーグ参加自治体（平成27年9月末現在）

● 活動内容

◇ 幸せリーグでは、参加自治体の首長で構成される「総会」と実務者で構成される「実務者会議」を開催しています。

◇ 幸福度の研究や住民の幸福実感向上に向けた施策等について意見交換を行うとともに、全国にその内容を発信しています。また、これらを通じて、参加自治体の職員の育成にも努めています。

◇ 第1回総会では、顧問である月尾嘉男東京大学名誉教授から「幸福社会への巨大転換」のテーマで、第2回は広井良典千葉大学教授から「人口減少時代の幸せビジョン—地域からの離陸と着陸—」について、それぞれご講演をいただきました。第3回の総会では、これまでの実務者会議で調査研究を重ねてきた5グループによる成果発表を行いました。



実務者会議の様子

◇ 住民の幸福度に基づく行政運営を目指す基礎自治体が連携して、意見交換、情報交換等を行うことで、各自治体における行政サービスのレベルアップを図るとともに、参加自治体間において物産展や自然体験事業等の交流事業や災害時協定の締結をはじめとする連携事業が行われることにより、win-winの関係構築に努めています。

3 荒川区独自の全国連携の取組

● 災害協定の締結

- ◇ 区では、区民の皆様の安全安心を確保するため、全国15の自治体と災害時における相互応援に関する協定書を締結しています。これは、大規模な災害が発生し、被災した自治体単独では十分に被災者の救援その他の応急措置が実施できない場合に、相互に応援を行うことを目的とするものです。
- ◇ 9月11日には、台風11号の影響で河川が決壊し、甚大な被害を受けた常総市を支援するつくば市（平成24年8月災害協定締結）に支援物資の運搬を行いました。



物資運搬をする職員を激励

● 中学校防災部による被災地訪問

- ◇ 区では、将来、防災活動のみならず、地域活動に貢献できる防災ジュニアリーダーを育成するため、区立中学校全校に防災部を創設しました。
- ◇ 今年の夏休みには、防災部代表として20名の生徒を被災地へ派遣しました。生徒たちは、宮城県南三陸町や岩手県陸前高田市の被災地を訪問したり、釜石市立釜石東中学校の生徒と「防災のために何ができるか」というテーマでグループディスカッションを行ったりしました。

● JOBAN アートライン



ワークショップの様子

- ◇ 区では、常磐線沿線地域の活性化を目的として、沿線都市（台東区、荒川区、足立区、葛飾区、松戸市、柏市、我孫子市、取手市）と、それを結ぶJR東日本、東京藝術大学で構成される、「JOBAN アートライン協議会」に参加しています。
- ◇ JR東日本沿線の引き取り手のない忘れ物傘にペイントを施し、再利用するアートプロジェクトである「JOBAN アートアンブレラ」等を開催しています。

● 自然体験事業

- ◇ 子ども達を対象に、少年キャンプ、農業体験、ハイキング等を行うことにより、子ども達が自然や生き物の大切さを実感し、異なった環境に暮らす人々と共感できる能力を醸成しています。
- ◇ これらの事業は、他自治体との連携のもとに実施されており、さまざまな交流を生んでいます。



ハイキングをする子ども達

● 日暮里マルシェ

- ◇ 10月17、18日に、釧路市等釧路管轄内7町1村が、日暮里駅東ロイイベント広場で開催される「にっぽりマルシェ」に出店します。当日は、「星空の黒牛」、「カニてっぽう汁」といった特産品の実演販売等を行う予定です。
- ◇ これは、7月に、高橋はるみ北海道知事が荒川区を訪問された際に、全国連携について意見交換したことがきっかけとなって実現したものです。